

技術革新の流れを捉え、新たな価値の創造を

コニカミノルタホールディングス株式会社

取締役 常務執行役 木谷 彰 男



1990年代半ばに始まったデジタル・情報革命が大きな転換機を迎えています。先進国では、いち早くこのデジタル技術のメリットを享受していましたが、2008年のリーマン・ショック（金融危機）を受け、成長が停滞或いは衰退しているのが現状です。一方、新興国では、デジタル技術の普及により市場が拡大し、経済的な台頭が鮮明になってきています。同時に、現在の急速な円高の進行は、日本企業に海外生産へのシフトだけでなく、生き残りをかけた新たな事業分野での取り組みと成長を余儀なくさせています。

このような世界情勢、経済環境において、コニカミノルタは、既存事業の強化、既存事業の業容拡大（プロダクションプリント、オプトデバイス）と新規事業育成という経営方針を掲げ、「強い成長の実現」に向けて取り組んでおります。本号の特集では、その代表的な事業領域であるプロダクションプリントを取り上げました。

グーテンベルグの活版印刷の発明以来、印刷技術は様々な発展を遂げ、いまや高画質で大量の印刷物が世の中に溢れています。とりわけ、最も一般的な印刷技術が20世紀初頭に発明されたオフセット印刷です。これは、高い画像品質を安価に安定して得られること、更に多種多様な紙などのメディアに印刷できることが特徴です。

オフセット印刷に代表される従来の印刷技術では、高画質で安価に多量に印刷できる利点はありましたが、「環境にやさしい」或いは「省エネルギー」が叫ばれている現在では、必ずしもその要求を満たすものではありません。

また、1938年にチェスター・カールソンにより考案された電子写真は、オフィスでのプリンターや

MFP (Multi Function Peripheral) に適用され、広く普及してきました。電子写真のデジタル化、カラー化、高画質化および高速化は、この技術が印刷分野に拡大する前提となりました。更に、電子写真とデジタル・ネットワーク技術の融合は、必要な時に必要な部数を印刷するという省エネルギー・省資源型の「オンデマンド印刷」や、一枚一枚の印刷の中で顧客の要望に応じて部分的に変更を加える「バリエーション印刷」を発展させました。この変革は、製版・印刷工程のワークフローにも影響を与え、工程の著しい短縮化・省人化や遠隔地・多地点での同時印刷に寄与しています。

コニカミノルタでは、このように業界全体が変動する時こそチャンスと考え、電子写真技術とデジタル・ネットワーク技術との融合を更に推し進め、CRD* (Central Reprographic Department) 分野、PPF (Print For Pay) 分野から多様なCP (Commercial Printing) 分野へと業容拡大に貢献していく所存です。

1990年代から飛躍的に進展してきたデジタル情報革命に、環境・エネルギー要素が新たに付加されてきています。この技術革新の流れを的確にとらえ、経営理念として掲げている「新しい価値の創造」を実践し、お客様に満足していただけるような新たな価値を提供してまいります。

今回、特集としてプロダクションプリントを取り上げましたが、弊社では、4分野（材料・光学・微細加工・画像）にわたる12のコア技術をもとに、グローバルな競争に勝てる技術開発を行っております。本特集に加え、多岐にわたる分野で技術論文、技術紹介を掲載しましたので、コニカミノルタのコア技術の広がりをご覧ください。ご理解いただければ幸いです。 * CRD：大企業などの社内印刷部門で行われる集中印刷